

11. 近代移行期の秩序意識(1) —潜伏キリシタンの明治維新—

2025. 6.26. 大橋 幸泰

はじめに

浦上四番崩れ／潜伏から信仰表明へ転回／三番崩れ以前とは大きく異なる

→明治維新政府、信徒を説諭の上、改心させることを企図／西日本諸藩に配流

第一次 慶応4年(1868)5-6月／主要人物114人

第二次 明治2年(1869)12月／一般信徒3,300人余

→外国公使からの抗議／政府、配流先での待遇配慮を約束

→加えて、明治3年12月外国公使から、待遇改善要求

→明治4年4-7月、政府は役人を配流先に派遣し、待遇と説諭の状況を調査

*この間、配流先の信徒の態度が、「切支丹」の怪しげなイメージを緩和／政府の宗教政策に影響

→その後、信徒の配流という経験は、信徒自身とその後の村社会に何をもたらしたか

本日の課題／キリシタンの配流先の状況と彼らの帰村後を検討

1. 配流信徒の不改心・改心

(1) 配流信徒の態度

諸藩による説諭／その結果、不改心・改心の混在(表)

ア.すべて不改心の場合、イ.すべて改心の場合、ウ.不改心・改心が混在の場合／ウが最多

*一律でない信徒の姿、信徒の分断が進行(→帰村後の信徒分裂に影響)

(2) 不改心の思想

a. 不改心者の主張

来世救済の実現はデウスのみと主張(史料 1・2)／天主と天之御中主神(『古事記』における天地開闢の神)は同じとの説諭に対して、日本の枠組みを越えた発想で抵抗

*一方で、天皇の治世や現実の神祇信仰を否定していない

潜伏キリシタンの信仰の目的／現世利益と来世救済

→幕末における信仰表明／来世救済願望への傾斜／殉教を厭わぬ強い意志(史料3)

b. 潜伏から信仰表明への転回の意味

厳禁されている宗教を信仰／既存秩序への不満／だからこそ現世利益の期待は後退

*京坂「切支丹」一件の「切支丹」も同じ／厳禁されている「切支丹」信仰の自覚

→既存秩序から逸脱することによってしか、幸福を期待できない／既存秩序では自分の幸福を確保できない

*既存秩序への厳しい批判を内包／信仰表明はキリシタンの「世直し」願望の表出

2. 改心への再転回

(1) 説諭の方法／藩によりさまざまな方法

ア.僧侶による場合／少数、イ.神職による場合／神典をもとに説諭、ウ.役人による場合／「皇道ヲ以恩儀ヲ示」(福山)、「皇学相心得候者ヲ以説諭」(松江)、「御国律ニ背候廉ヲ誠メ、仁恤ヲ以」(岡山)

*背景に、政府による神仏分離をとまなう神道国教化政策

→起請文／産土神の神罰や山王社信仰の代替(史料 4・5)は効果的／改心への抵抗は大きくなかったのではないか

(2) 改心者の扱い

改心者には外稼ぎを認めることが基本／賃金は当人のもの
→役人巡視後、市在へ仮住居も認める／在地民衆との混在

死者の埋葬／役人巡視前、一律に仮埋(名古屋・姫路)、仏教式(津・郡山・鳥取・松江・広島)の場合もあり
→巡視後ほとんどが、改心者は神葬祭、不改心者は仮埋の指示
* 広島の場合／巡視後も変更なしだが、不改心者は墓標に「耶蘇」の文字を入れる
* 津和野の場合／巡視前から、改心者は本葬祭、不改心者は仮埋
→改心者への「優遇」／改心へ心理的誘導を企図

(3) 配流信徒の願望

家族離散解消、帰村への願望(史料 6)

* すべて改心した松江藩の場合／最初、「皇学」をもとに説諭したところ、信徒たちは説諭者を罵ったが、「宗徒ノ帰服ヲ第一」に説諭方針を転換した結果、徐々に改心者が出て、やがてすべて改心(史料 7)
→信徒としての属性よりも、日常生活を取り戻すことを優先

3. 宗教的不寛容の進行

(1) 帰村後の村社会における分裂

不改心者が改心者・他宗者を批判・圧倒(史料 8)／家族内不和の惹起(史料 9)／村内不和の進行(史料 10・11)
→三派へ分裂(史料 12)

(2) 国家権力の相対化

「パテル」(大浦天主堂宣教師)・「助教」(村社会の信徒リーダー)の指導、影響力大(史料 13・14)／「パテル」の指導により、天長節・祭日に日章旗を掲げない一方で、キリスト教の祭日には行事を実施(史料 15)／朝廷の相対化(史料 16・17)／他宗者の不満(史料 18)／宗教的諸属性の不寛容(史料 19・20)
→政府の指導より「パテル」・「助教」の指導を優先

おわりに

不改心・改心の混在／一律でない潜伏キリシタンの態度

→来世救済願望への傾斜(不改心)と、現世での生活の重視(改心)という二極化

→ただし、不改心の場合でも、来世救済願望を除けば従順な百姓／すべて改心させることは不可能

→明治5-6年、帰村の実現／信徒には分裂の契機、政府にはキリスト教放置と神道国教化放棄の契機

その後の明治政府の宗教政策はキリスト教放置／かえって村社会では、キリスト教をめぐる確執が惹起

* 政府は神道国教化を放棄したが、神道の優越を保持する方法を模索／神道非宗教論へ

【参考文献】

家近良樹『浦上キリシタン流配事件—キリスト教解禁への道』(吉川弘文館、1998年)

大橋幸泰「文明開化とキリスト教」(『歴史地理教育』940、2022年)

大橋幸泰「起請文からよみとく配流キリシタンの改心」(歴史科学協議会編『深化する歴史学』大月書店、2024年)

大橋幸泰『近世日本邪正論—江戸時代の秩序維持とキリシタン・隠れ／隠し念仏』(勉誠社、2024年)

【付記】

・明日までに、Hoppiiieにて講義記録の提出を求める。

・小レポート提出期限 2025年7月9日：小レポートを提出した者が試験(7月17日)の受験資格を有する。